

2018（平成30）年度 第4期 事業報告書

2018（平成30）年4月1日から

2019（平成31）年3月31日まで

1. カトリック学校の課題と対応

司祭・修道者の高齢化や減少に伴い、カトリック学校としてのアイデンティティの維持・継承が大きな課題である。これらに対応するため、学校責任者の養成や教職員の研修がより重要性を増すと同時に、優秀な教職員人材の確保が必要となっている。また、少子化や私学間の競争、公立との競合など、経営面の課題も山積しており、学校法人の組織の在り方自体を検討することも求められる時機が到来していると思料する。いずれも喫緊に取り組むべき課題であり、当連合会も一般財団法人発足4年目を迎え、事業の推進に注力した。

具体的には、研修会の重要性や必要性から、研修会特別委員会において内容の検討を行うとともに、できることはすぐに実行に移すこととし、必要な研修会の新設や啓発DVDの作成などに着手した。人材確保の支援では、学校一日体験の開催やホームページの人材情報が大いに役立っている。苦戦が続く地方の学校法人の中には、土地活用、教育内容や組織の変革で展望が開けるケースもあり、学校法人特別委員会による支援を行った。

2. 法人理事会、評議員会の開催

理事会・評議員会の開催は以下のとおり。

第13回理事会	2018年4月29日開催（みなし理事会） （議案内容）2017年度事業報告・決算、理事選任
第5回評議員会	2018年5月25日開催 於ニコラ・バレ修道院 （議案内容）報酬規程の変更、2017年度事業報告・決算、理事選任
第14回理事会	2018年5月25日開催 於ニコラ・バレ修道院 （議案内容）連合会組織の在り方、小中高連盟の共催事業について
第15回理事会	2018年10月19日開催 於ニコラ・バレ修道院 （議案内容）理事会開催方法、財務委員会設立、業務執行状況・中間決算報告
第16回理事会	2019年2月22日開催 於ニコラ・バレ修道院 （議案内容）理事会・評議員会の開催日程、資金運用規程の改訂・財務委員会運営規程の追加、役員交代、2019年度事業計画、2019年度予算
第3回評議員選定委員会	2019年3月4日 於連合会事務局 （議案内容）評議員選任

3. 事業について

法人の事業は、傘下の各連盟（校種別に、「大学連盟」「短期大学連盟」「小中高連盟」「幼児教育連盟」）ごとの事業と、各連盟に共通する事業（「連合会共通事業」）、加盟校向けの発刊事業（「よき家庭」「ひかりの子等」）に区分し、取り組んだ。具体的な内容は、次頁以降（2頁～6頁）の通り。

【連合会共通事業】

1. 人材情報の確保と支援

- ホームページ上のカトリック学校人材情報制度を通して、加盟校の教職員採用を支援した。HP 開設以来 9 年が経過し、制度の認知度が高まる中で幼稚園から高校まで広く利用されるようになった。3 月末で、求職登録数は 160 名で、学校からの求人掲載数は 150 件であった。
- 教職志望者の理解を深める一助として、カトリック学校における「学校一日体験」を企画・運営した。9 年目を迎える今年は、2018 年 9 月 7 日、聖ヨゼフ学園小学校、聖ヨゼフ学園中学・高等学校(横浜市)にて開催。参加者 31 名(+引率教員 2 名)にとって貴重な体験となった。

2. 学校法人特別委員会

- 2015 年度からの継続事業。加盟校がカトリック学校としての使命を果たすために、教育内容の充実、法人統合等について専門的見地から、集中的な検討や具体的な助言・支援を行っている。2018 年度は、関西・中部地区の学校についての検討に加え、北海道地区の学校の支援を続けた。学校・法人・教区が情報を共有し、一体となって取り組んだ結果、法人移管が実現する。これらの進捗については、4 月、6 月、10 月、12 月、3 月の委員会で報告と検討が行われた。

3. 研修会特別委員会

- 2016 年度からの継続事業。加盟校がカトリック学校としてその使命を果たすために必要な研修の企画・運営に携わった。当連合会が関わる研修会を通して、後継者の養成が着実になされるよう努めている。各研修会の振り返りと提案を受けて、今年度、大学と短大合同で初の職員研修会を開催した。また、教職員向けのカトリック教育の理解を深めるための DVD を 2019 年 12 月刊行する予定。本年度は、5 月、10 月、1 月、3 月に委員会を開催し、検討を続けた。DVD 作成については少人数のワーキング・グループを組織し、20 回以上にわたって検討・ヒアリングを行い、随時、委員会の報告している。

4. カトリック学校法人リーダー研修会

- カトリック学校が抱える諸問題の中からテーマを設定し、将来のカトリック学校を担うリーダーを対象とした研修会を企画・運営した。2018 年 10 月 18 日～19 日、ニコラ・バレ修道院(四ツ谷)にて、テーマを「リーダーシップを考える～決断はどのように…?」とし、理念的な話をアガスティン・サリ神父(イエズス会)と Sr.原恵子(援助修道会)が、実践的なワークショップの指導を李聖一神父(イエズス会)が行った。参加者は 40 法人 74 名。

5. キリスト教学校教育懇談会

- プロテスタント校と協力して講演会・分科会を実施した。開催場所は東京と大阪の交互としており、本年度は東京で開催した。プロテスタント側が当番で、実行委員会を設置して進め、2018 年 11 月 17 日青山学院大学にて合同で講演会を開催した。テーマを「グローバル社会におけるキリスト教学校の役割～多文化共生社会の課題～」とし、高桑光徳先生(明学大)の講演、木村護郎クリストフ先生(上智大学)と中村友太郎氏(AIA 塾長)によるパネル・ディスカッションが行われた。参加者は一般から 74 名、スタッフ 15 名を加えて計 89 名。

6. 情報発信

- ホームページを活用して、当連合会、並びに各連盟の取り組みについて都度、掲載した。一日の利用者数は、平均 1,000 件を超えた。

7. 日本カトリック学校教育委員会との連携

- カトリック学校教育の使命を果たすために、学校教育委員会と連携して事業を進めた。定例委員会には、理事長が委員として、事務局からもオブザーバー参加を行った。また、「集い」(2018年4月28日～29日に都市センターホールで開催)には、当連合会委員・事務局員が参加した。

8. みちのく未来基金

- 「みちのく未来基金」と連携し、カトリックのサポート大学・短期大学が震災で親を亡くした子どもたちを支援している。毎年 1 回、「みちのく未来基金」の事務局を訪問。今年度も 3 月に訪問し、情報交換を行った。

9. 資産運用

- 「資金運用規程」及び「2018 年度資産運用方針」に沿って、適正かつ効率的な運用を継続した。運用は安全確実を基本とし、カトリック教会の方向性に則し、人権・環境・平和を損なう企業などについて投資を行わないこと、新たな投資は 1 銘柄 1,000 万円以下とすることなどを運用方針とした。本年度も緩やかながら景気回復が続く中、利息配当がもたらす資産運用益は昨年度並みとなった。また、新たに財務委員会を設け、この件について検討を重ねることとした。

10. 「賛助会員制度」

- 学生・生徒数減少による会費収入の漸減傾向に鑑み、昨年度より、連合会の事業に支援をしていた「賛助会員制度」を設けた。様々な機会を通じて情宣し、今年度は 27 団体 290 万円(一部複数年度分)、個人から 5 万円、ご寄付 5 件 11.2 万円のご支援をいただいた。

【大学連盟事業】

1. 連盟の運営(総会等)

- 日本カトリック大学連盟の事業を企画し、実施に向けて、総会・幹事会にて内容を検討した。2018 年 6 月 8 日～9 日にかけて、2018 年度総会が東京(都市センターホテル・上智大学)で開催された。

2. 研究奨励・奨学金

- カトリック学術奨励金「研究奨励賞」選考規程、「研究助成金」選考規程、大学院奨学生選考規程、大学院留学生奨学生選考規程に基づき、研究奨励賞、研究助成金、大学院奨学生・留学生奨学生を選出した。2018 年度は大学院奨学生 2 名、大学院留学生奨学生 4 名を選出。また学術奨励金「研究助成金」1 件、「研究奨励賞」5 件を選出。

3. 大学連盟・短期大学連盟合同職員研修会

- 短期大学連盟と合同で 2018 年 8 月 30 日～31 日にかけて「カトリック大学・短期大学の原点を考える」をテーマにアルカディア市ヶ谷と白百合女子大学を会場に職員研修会が開催された(担当校は白百合女子大学)。三輪義彦氏(上智大学)、西経一神父(神言会)による基調講演、倉石嘉夫氏(清泉女学院大学)、中澤雅之氏(日本女子大学)、菊池克仁氏(法政大宅)によるパネル・ディスカ

セッションが行われた。10 大学・11 短期大学より 37 名が参加。

【短期大学連盟事業】

1. 連盟の運営(総会等)

- 日本カトリック短期大学連盟の事業を企画し、実施に向けて、総会にて内容を検討した。2018 年 5 月 17 日ニコラ・バレ修道院にて定期総会を開催し、2017 年度の事業・決算、2018 年度の事業・予算を審議し承認した。また規約を改正し、総会及び幹事会に、オブザーバーの参加を可能とした。

2. 研究奨励

- カトリック学術研究奨励賞選考規程に基づき、研究奨励賞を決定した。総会に諮り、4 名の応募に対し、1 名を選出した。

3. 理事長・学長研修会

- カトリック短期大学の理事長・学長を対象に、研修会を実施した。2018 年 9 月 20 日～21 日、久留米信愛短期大学にて開催した。西経一神父(神言会)より「聖書と宗教教育」をテーマとした基調講演があり、3 学より事例の報告が行われた。同時に臨時総会を開き、当研修会のあり方について意見交換を行った。参加者は 12 名。

4. 大学連盟・短期大学連盟合同職員研修会(大学連盟の項ご参照)

【小中高連盟事業】

1. 連盟の運営(委員会等)

- 日本カトリック小中高連盟の事業の企画・実施に向けて、代表委員会にて内容を検討した。昨年より春の代表委員会は、「校長・教頭合同研修会」に先立ち、当日の午前中に行った(2018 年 6 月 21 日、KKR ホテル)。2017 年度の事業・決算、2018 年度の事業・予算を審議し、承認した。秋は 10 月 24 日、ニコラ・バレ修道院にて、2018 年度の事業・決算の中間報告、次年度各地区分担金額等を承認した。

2. 校長・教頭合同研修会

- 日本カトリック小中高連盟主催(担当は近畿地区)で、2018 年 6 月 21 日～22 日、KKR ホテルにて、カトリック学校長・教頭を対象に研修会を実施した。開催テーマを「21 世紀を生きぬくカトリック学校」とし、本田哲郎神父(フランシスコ会)により基調講演が行われたのち、2 校より事例報告が行われた。2 日目も 1 校より事例報告が行われ、その後テーマ別の分科会においてが活発な意見交換が行われた。参加者は 128 名。

3. キリスト教研究会

- 関東地区の教職員を対象に、年 10 回、土曜日の午後で開催している。今年度は美術史家の保坂ひろみ氏を講師に招き、「中世キリスト教美術を味わう」のテーマで、ニコラ・バレ修道院を主な会場に 5 月より 10 回開催した。参加者 31 名。

4. 新任校長研修会

- 校長着任 3 年目程度を目安に行う新任の校長先生方を対象とした研修会。昨年新設の「事務職員

研修会」と交互に隔年開催。2018年8月1日～2日、ニコラ・バレ修道院で開催された。石川一郎氏(香里ヌヴェール学院長)、関谷義樹神父(サレジオ会)、伊藤春樹氏(四日市メリノール学院長)が講演を行い、その間にグループ討議も実施した。全国より13名の新任校長が参加した。

5. カトリック教育を学ぶ会

- 比較的若い世代の先生を対象として昨年度から新たに始まった研修会。当初、隔年開催の予定であったが、第1回参加者からの毎年開催希望の声を受け、2018年8月7日～8日、伊藤幸史神父(東京教区)を講師とし、北海道・北見藤高校とカトリック北見教会を会場に開催。全国より13名の若手の先生が参加。

6. 共催事業

- 各地区連盟と日本カトリック小中高連盟との共催事業を企画・実施した。共催事業の実施にあたり、事前に事業内容を各地区連盟と打合せ、各地区の実施計画に基づき、7月に前渡し金を送金し、12月以降実施報告書により共催事業の小中高連盟負担金を確定した。

【幼児教育連盟事業】

1. 連盟の運営(委員会等)

- 日本カトリック幼児教育連盟の事業の企画・実施に向けて、常任委員会及び代表委員会にて内容を検討した。常任委員会は、6月7日、11月16日、2月7日の3回、代表委員会は6月7日(常任委員会終了後)、ニコラ・バレ修道院にて開催された。6月の代表委員会で、2017年度の事業・決算、2018年度の事業・予算を審議し、承認した。また、一昨年から「日本カトリック保育施設協会」との連携が進められており、常任司教委員会へも進捗状況を報告しながら、2021年度の統合を準備中。

2. 後継者養成研修会

- 将来のカトリック園を担っていく人材の育成を目的として、2018年7月26日～28日、南山学園研修センター(名古屋)にて2泊3日の研修会を実施した。参加者50名。

3. 理事長・園長研修会(日本カトリック保育施設協会と共催)

- 日本カトリック保育施設協会との連携の一環として、初めて共催で理事長・園長研修会を2018年8月24日、上智大学を会場に開催した。研修会テーマを「カトリック園としてのアイデンティティの継承」とし、百瀬文晃神父(イエズス会)の基調講演ののち、3園より発題があり、パネル・ディスカッションが行われた。参加者は全国より232名。

4. 機関紙「かがやき」の発行

- カトリック園教職員向けに、誌面・内容を大幅に刷新した機関紙(年2回発行)を発行した。1号(6月発行)、2号(12月発行)とも好評を博している。

5. 研修会助成金

- 当連合会の目的達成に則する事業として、「キリスト教教育に関する研究会・講演会の開催」を企画・運営する団体に助成を行っている。2018年度は各地区カトリック幼児教育の団体に14件68万円を助成した。

6. eラーニングによる教員免許状更新講座の開設

- 幼稚園教諭の免許更新に特化したオンライン講習講座の2019年12月の開設を目指し、キリスト教学校教育同盟、キリスト教保育連盟と連携・協力し、進めている。

【「よき家庭」発刊事業】

- カトリック小中高に学ぶ児童・生徒の保護者を対象に、家庭教育、学校との協力の推進に資するために、年間3回(7月・12月・2月)、編集・出版した。購読申込数は約85,000部/各号(年間購読料770万円)と前年(約83,000部/各号、年間購読料750万円)比増加した。

【「ひかりの子」発刊事業】

- カトリック園に学ぶ園児の保護者を対象に、家庭教育、カトリック園との協力の推進に資するために、年間6回(4月・6月・9月・11月・1月・3月)、編集・出版した。2018年度の購読申込部数は約57,500部/各号(年間購読料2,070万円)、前年とほぼ同じ

以上